平成２７年７月２９日

社会福祉振興助成事業の評価方針

社会福祉振興助成事業審査・評価委員会

独立行政法人福祉医療機構（以下「機構」という。）は、社会福祉振興助成事業（以下「助成事業」という。）を通じて、多様な社会資源がそれぞれの地域で有機的に連携・協働し、それぞれの得意とする活動を行いながら人と地域の結びつきをより強くし、支え合いと活気に満ちた地域社会の再生を目指すシステムづくりに取り組み、高齢者・障がい者が地域の支え合いの中で自立した生活が送れる社会、また、子どもたちが健やかに安心して成長できる社会の実現を目指すこととしている。

助成事業の評価に当たっては、助成を受けて実施された事業がどのような成果を上げ、社会にどのような影響を与えたかについて、次の方針に基づき行うものとする。

Ⅰ　事業評価の目的

（１）　政策動向や国民ニーズを踏まえ助成した事業について、「期待した成果を上げているか、その成果が社会にどのような影響を与えたか」を効果測定すること。
（２）　優れた事業を広報することにより、全国・広域での普及啓発を図ること。
（３）　評価結果を、助成プログラムの改善に活かすこと。
（４）　限られた資源を有効に配分し、最大限の効果を上げること。
（５）　新たな対応が必要な課題を発掘し、その課題を国に提言することにより政策への反映を図ること。
（６）　評価結果を公表することにより、国庫補助金による助成事業の運営主体として、国民に対する説明責任を果たすとともに、助成事業の一層の透明化を図ること。
（７）　評価のプロセスを通じて、助成事業の継続・自立を促すとともに、助成先団体の活動の発展・改善に貢献すること。

Ⅱ　評価の進め方

１．評価の方法

（１）自己評価（助成先団体による評価）

助成事業終了後、機構が定める様式（自己評価書）に基づき、助成先団体が自己評価を実施する。

（２）ヒアリング評価

前年度に機構が助成した全事業の中から社会福祉振興助成事業審査・評価委員会（以下「審査・評価委員会」という。）の審議を経て決定した基準に基づき選定した事業について、審査・評価委員会委員又は機構事務局が、助成先団体を直接ヒアリングし、評価を実施する。

（３）書面評価

（２）のヒアリング評価の対象とならなかった事業について、助成先団体が提出した事業完了報告書等に基づき、機構事務局が書面評価を実施する。

２．評価の項目・基準

（１）ヒアリング評価

ア．評価項目

評価項目		評価の視点	ウエイト
プロセス評価	事業推進姿勢	・事業実施のための明確な理念を持っているか ・事業に取り組む意欲・積極性は十分だったか	1
	事業実施体制	・団体内部のガバナンス体制の確保等、実施体制が整っており、また必要な専門性を備えているか ・有効性、実効性のある外部資源の活用・連携ができたか	1
	事業実施プロセス	・事業目的の実現のため、効果的、効率的、経済的な手法を用いて実施できたか ・事業の利用者等の評価を確認し、継続的な改善に結び付けているか	1
成果評価	アウトプット（直接的成果）	・事業が計画どおりに実施され、予定した成果を生むものとなったか ・量的な指標をどの程度達成できたか	2
	アウトカム（質的成果）	・事業の利用者等のニーズを満たし、価値ある成果を上げることができたか	3
	インパクト（社会的成果）	・事業の成果が地域や社会へどのようなインパクトを与えると想定されるか ・事業の成果の他地域への広がりやその可能性がみられるか	2

※ウエイトの合計は 10

イ．評価基準

レベル	スコア	評価指標
S	１０	非常に高く評価できる水準にあるもの
	９	
A	８	高く評価できる水準にあるもの
	７	

B	6	良好な水準にあるが、一部課題のあるもの
	5	
C	4	一定の水準にあるが、かなり課題のあるもの
	3	
D	2	全般的に多くの課題のあるもの
	1	

（２）書面評価

ア．評価項目

評価項目		評価の視点	ウエイト
プロセス評価	事業実施体制	・団体内部のガバナンス体制の確保等、実施体制が整っており、また必要な専門性を備えているか ・有効性、実効性のある外部資源の活用・連携ができたか	1
	事業実施プロセス	・事業目的の実現のため、効果的、効率的、経済的な手法を用いて実施できたか ・事業の利用者等の評価を確認し、継続的な改善に結び付けているか	2
成果評価	アウトプット（直接的成果）	・事業が計画どおりに実施され、予定した成果を生むものとなったか ・量的な指標をどの程度達成できたか	3
	アウトカム（質的成果）	・事業の利用者等のニーズを満たし、価値ある成果を上げることができたか	4

※ウエイトの合計は 10

イ．評価基準

レベル	スコア	評価指標
S	１０	非常に高く評価できる水準にあるもの
	9	
A	8	高く評価できる水準にあるもの
	7	
B	6	良好な水準にあるが、一部課題のあるもの
	5	
C	4	一定の水準にあるが、かなり課題のあるもの
	3	
D	2	全般的に多くの課題のあるもの
	1	

３．総合評価

「ア．評価項目」の項目ごとに「イ．評価基準」の５段階（ＳからＤ）で評価し、レベルのなかでも上位に近いのか下位に近いのかを判定したうえで、各評価項目のスコアを決定する。

各評価項目のスコアに「ア．評価項目」のウエイトを掛け合わせ、その合計を総合スコアとする。

総合スコアをもとに、次の５段階（ＳからＤ）で総合評価を決定する。

総合評価	総合スコア	評価指標
S	90 以上	非常に高く評価できる水準にあるもの
A	70 以上 90 未満	高く評価できる水準にあるもの
B	50 以上 70 未満	良好な水準にあるが、一部課題のあるもの
C	30 以上 50 未満	一定の水準にあるが､かなり課題のあるもの
D	30 未満	全般的に多くの課題のあるもの

Ⅲ　評価結果の活用

１．団体へのフィードバック

ヒアリング評価の結果については、原則、評価者の合意を得たのち、評価を担当した委員及び機構事務局それぞれの所見を付して、評価対象団体あてにフィードバックすることにより、制度や機構内部の改善のみならず、団体の活動や事業展開の参考にも供することとする。

２．審査への反映

ヒアリング評価により得られた事業の評価結果については、審査・評価委員会において共有し、以後の審査の参考とする。

３．優れた事業の普及啓発

評価の結果、特に優れていると認められた事業については、機構ホームページ、広報誌、事業報告会などにより広報することで、全国･広域での幅広い普及啓発を図る。

４．評価結果の公表、助成制度の改善、政策への提言

審査・評価委員会は、評価結果を年度末に事業評価報告書として取りまとめ、機構に報告、提案するとともに、機構は、機構ホームページ上などで公表する。

また、機構はその内容に基づき、助成制度の改善に努めるとともに、課題によって国に対して政策の提言を行う。

Ⅳ　フォローアップ調査

機構事務局は、助成事業終了後から１年以上経過後に、助成先団体へのフォローアップ調査を実施し、助成事業の継続状況や財源、助成事業による効果や課題などを把握し、助成制度や助成先団体への支援の在り方の継続的な改善などに結びつけることとする。

Ⅴ　委員の遵守事項

（１）　委員は､公平･公正で厳格な評価を行うべきことを常に認識すること。

（２）　評価の公平･公正を確保するため､委員がヒアリング評価の対象団体の運営に関わるなど利害関係者に該当する場合は、当該団体のヒアリング評価を実施できないこと。

また、当該団体の役職員と親密な個人的関係があるなど利害関係者に該当すると自ら判断した場合は、当該団体のヒアリング評価を担当しないこと。

なお、利害関係者に該当し、ヒアリング評価を担当しない場合は、その旨を機構事務局に報告すること。

（３）　委員は、評価を行う際に知り得た情報を第三者に漏らしてはならないこと。

自己評価の設問別集計結果

（単位：件）

設問項目		1次募集												2次募集											
		福祉活動（78件）				地域連携（138件）				全国広域（41件）				地域連携（55件）				全国広域（8件）				合計（320件）			
		十分		不十分		十分		不十分		十分		不十分		十分		不十分		十分		不十分		十分		不十分	
1. 事業推進姿勢	(1)明確な理念をもって取り組めたか	78	100.0%	0	0.0%	138	100.0%	0	0.0%	41	100.0%	0	0.0%	54	98.2%	1	1.8%	8	100.0%	0	0.0%	319	99.7%	1	0.3%
	(2)意欲や積極性をもって取り組めたか	78	100.0%	0	0.0%	138	100.0%	0	0.0%	41	100.0%	0	0.0%	55	100.0%	0	0.0%	8	100.0%	0	0.0%	320	100.0%	0	0.0%
2. 事業実施体制	(3)委員会を組織し、運営や役割分担等を検討したか	70	89.7%	8	10.3%	132	95.7%	6	4.3%	40	97.6%	1	2.4%	53	96.4%	2	3.6%	8	100.0%	0	0.0%	303	94.7%	17	5.3%
	(4)役割分担を決め、各担当者が責任を持って実施したか	68	87.2%	10	12.8%	122	88.4%	16	11.6%	39	95.1%	2	4.9%	50	90.9%	5	9.1%	8	100.0%	0	0.0%	287	89.7%	33	10.3%
	(5)専門知識を持ったスタッフやボランティアの確保	72	92.3%	6	7.7%	132	95.7%	6	4.3%	40	97.6%	1	2.4%	54	98.2%	1	1.8%	7	87.5%	1	12.5%	305	95.3%	15	4.7%
	(6)団体内部で情報共有や協議を行ったか	73	93.6%	5	6.4%	133	96.4%	5	3.6%	40	97.6%	1	2.4%	54	98.2%	1	1.8%	8	100.0%	0	0.0%	308	96.3%	12	3.8%
	(7)連携団体と各種情報や課題・成果の共有化					129	93.5%	9	6.5%	39	95.1%	2	4.9%	52	94.5%	3	5.5%	8	100.0%	0	0.0%	228	94.2%	14	5.8%
	(8)各連携団体のノウハウ・ネットワークを活用したか	76	97.4%	2	2.6%	130	94.2%	8	5.8%	40	97.6%	1	2.4%	52	94.5%	3	5.5%	8	100.0%	0	0.0%	306	95.6%	14	4.4%
3. 実施プロセス	(9)計画どおり実施できたか	62	79.5%	16	20.5%	116	84.1%	22	15.9%	38	92.7%	3	7.3%	46	83.6%	9	16.4%	6	75.0%	2	25.0%	268	83.8%	52	16.3%
	(10)効果的な手段・手法を用いて実施できたか	75	96.2%	3	3.8%	131	94.9%	7	5.1%	38	92.7%	3	7.3%	53	96.4%	2	3.6%	8	100.0%	0	0.0%	305	95.3%	15	4.7%
	(11)費用支出は適切か	74	94.9%	4	5.1%	133	96.4%	5	3.6%	39	95.1%	2	4.9%	54	98.2%	1	1.8%	8	100.0%	0	0.0%	308	96.3%	12	3.8%
	(12)他団体や関係機関等への広報	74	94.9%	4	5.1%	131	94.9%	7	5.1%	38	92.7%	3	7.3%	51	92.7%	4	7.3%	8	100.0%	0	0.0%	302	94.4%	18	5.6%
	(13)事業内容に見合った連携・協働事業ができたか					129	93.5%	9	6.5%	40	97.6%	1	2.4%	54	98.2%	1	1.8%	8	100.0%	0	0.0%	231	95.5%	11	4.5%
	(14)事業の継続的な改善に結び付けたか	77	98.7%	1	1.3%	133	96.4%	5	3.6%	41	100.0%	0	0.0%	51	92.7%	4	7.3%	8	100.0%	0	0.0%	310	96.9%	10	3.1%
4. アウトプット（直接的成果）	(15)目標どおりの参加者（利用者）を確保できたか	56	71.8%	22	28.2%	104	75.4%	34	24.6%	27	65.9%	14	34.1%	42	76.4%	13	23.6%	8	100.0%	0	0.0%	237	74.1%	83	25.9%
	(16)目標とした成果に結びつく結果となったか	76	97.4%	2	2.6%	129	93.5%	9	6.5%	37	90.2%	4	9.8%	51	92.7%	4	7.3%	8	100.0%	0	0.0%	301	94.1%	19	5.9%
5. アウトカム（質的成果）	(17)参加者（利用者）のニーズを満たせたか	74	94.9%	4	5.1%	132	95.7%	6	4.3%	41	100.0%	0	0.0%	51	92.7%	4	7.3%	7	87.5%	1	12.5%	305	95.3%	15	4.7%
	(18)投じた費用に見合う、期待した効果をあげたか	76	97.4%	2	2.6%	133	96.4%	5	3.6%	40	97.6%	1	2.4%	53	96.4%	2	3.6%	8	100.0%	0	0.0%	310	96.9%	10	3.1%
	(19)組織の拡大	66	84.6%	12	15.4%	112	81.2%	26	18.8%	35	85.4%	6	14.6%	43	78.2%	12	21.8%	7	87.5%	1	12.5%	263	82.2%	57	17.8%
	(20)団体内の人材確保・育成	68	87.2%	10	12.8%	112	81.2%	26	18.8%	35	85.4%	6	14.6%	50	90.9%	5	9.1%	6	75.0%	2	25.0%	271	84.7%	49	15.3%
	(21)新たなネットワークの構築	67	85.9%	11	14.1%	136	98.6%	2	1.4%	38	92.7%	3	7.3%	52	94.5%	3	5.5%	8	100.0%	0	0.0%	301	94.1%	19	5.9%
	(22)団体の成長や認知度・信頼度がアップしたか	78	100.0%	0	0.0%	137	99.3%	1	0.7%	38	92.7%	3	7.3%	55	100.0%	0	0.0%	8	100.0%	0	0.0%	316	98.8%	4	1.3%
	(23)事業継続し、充実・発展の計画があるか	77	98.7%	1	1.3%	136	98.6%	2	1.4%	41	100.0%	0	0.0%	54	98.2%	1	1.8%	8	100.0%	0	0.0%	316	98.8%	4	1.3%
6. インパクト（社会的成果）	(24)マスコミへの波及効果	44	56.4%	34	43.6%	92	66.7%	46	33.3%	27	65.9%	14	34.1%	38	69.1%	17	30.9%	3	37.5%	5	62.5%	204	63.8%	116	36.3%
	(25)地域や社会への広がりを期待できるか	74	94.9%	4	5.1%	135	97.8%	3	2.2%	41	100.0%	0	0.0%	53	96.4%	2	3.6%	8	100.0%	0	0.0%	311	97.2%	9	2.8%

設問項目		1次募集						2次募集					
		福祉活動（78件）		地域連携（138件）		全国広域（41件）		地域連携（55件）		全国広域（8件）		合計（320件）	
		事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合	事業数	割合
総合評価	S 非常に高く評価できる水準にある	9	11.5%	20	14.5%	9	22.0%	9	16.4%	1	12.5%	48	15.0%
	A 高く評価できる水準にある	37	47.4%	72	52.2%	26	63.4%	23	41.8%	7	87.5%	165	51.6%
	B 良好な水準にあるが、一部課題がある	30	38.5%	42	30.4%	6	14.6%	21	38.2%	0	0.0%	99	30.9%
	C 一定の水準にあるが、かなり課題がある	2	2.6%	4	2.9%	0	0.0%	2	3.6%	0	0.0%	8	2.5%
	D 全般的に多くの課題がある	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
	合　計	78	100.0%	138	100.0%	41	100.0%	55	100.0%	8	100.0%	320	100.0%

平成26年度社会福祉振興助成事業に係る自己評価書

受付番号 （内定通知に記載の2014から始まる番号11桁）		
助成区分		
助成事業名		
団体情報	名　称	
	連絡先 （電話番号）	（　　）
	自己評価書作成者	

【作成にあたっての留意点】

１．この自己評価書は、１助成事業ごとに作成してください。

２．自己評価書の記載内容については、必ず事業実施責任者の確認･了解のもとで作成し、ご提出ください。

３．事業完了報告書の「事業成果」欄でご記入いただく「具体的な成果等」「波及効果」「新たなニーズ」等の項目は、自己評価の項目としても扱わせていただいております。従いまして、事業完了報告書にはこれらの項目をできるだけ具体的にご記入ください。

４．ご記載いただいた自己評価書は必ずコピーをとり、団体の控えとして大切に保管してください。

今回の回答結果を参考に、今後電話やヒアリングの実施などにより、お話をうかがうことがありますので、記述欄については詳しくご記入ください。
今後は、事業の継続状況やその後の波及効果等をお伺いするフォローアップ調査を行いますので、引き続きご協力をお願いいたします。フォローアップ調査は平成２８年に実施予定です。

助成事業を振り返り、次の各設問について、**選択肢のア又はイのいずれか一方を必ず選択し、□にチェック（☑）してください。**また、チェック完了後、事業の総合評価として、**S～Dのうち該当するものを選択してください。**

自己評価項目		選択肢(チェック欄) ア	選択肢(チェック欄) イ
1.事業推進姿勢	（1） 助成事業は、事業実施のための明確な理念をもって取り組みましたか？	取り組んだ □	不十分だった □
	（2） 助成事業は、十分な意欲や積極性をもって取り組みましたか？	検討した □	不十分だった □
2.事業実施体制	（3） 事業の実施にあたり、委員会を組織し、組織運営や役割分担等を検討しましたか？	検討した □	不十分だった □
	（4） 企画・運営・広報・会計等、役割分担を明確にし、各担当者が責任を持って事業を実施する体制がとれましたか？	とれた □	不十分だった □
	（5） 専門知識を持ったスタッフやボランティアを確保し、事業を実施する体制がとれましたか?	とれた □	不十分だった □
	（6） 団体内部での情報共有や協議を行いながら事業を実施できましたか？	できた □	不十分だった □
	（7） 連携団体同士で助成事業に関わる各種情報や課題・成果の共有化を図りましたか?	図った □	不十分だった □
	（8） 団体(各連携団体)がもつノウハウやネットワークを活用しましたか？	活用した □	不十分だった □
3.実施プロセス	（9） 助成金申請書に記載した事業内容を、計画どおり実施できましたか？	できた □	不十分だった □
	（10） 事業目的を達成するために、効果的な手段･手法を用いて事業を実施できましたか？	できた □	不十分だった □
	（11） 事業内容に見合った支出を行いましたか？	行った □	不十分だった □
	（12） 助成事業の実施状況や事業の成果（成果物等）を他団体や関係機関等に広報（配布・情報提供）しましたか？	広報した □	不十分だった □
	（13） 事業内容に見合った連携・協働ができましたか？	できた □	不十分だった □
	（14） 参加者（利用者）のニーズや満足度を確認し、事業の継続的な改善に結び付けることができましたか？	できた □	不十分だった □

自己評価項目		選択肢(チェック欄) ア	イ
4.アウトプット（直接的成果）	（15） 計画時に、主な対象者として狙った層を中心に、目標どおりの参加者（利用者）を確保することができましたか？（マニュアル等の作成の場合、目的に沿った成果物を作成できましたか？）	できた □	不十分だった □
	上記（15）の設問で「不十分」となった要因について、具体的にご記入ください。		
	（16） 実施した事業は、目標とした成果に結びつくような結果となりましたか？	なった □	不十分だった □
5.アウトカム（質的成果）	（17） 参加者（利用者）のニーズを満たすことができましたか？	できた □	不十分又は未確認 □
	（18） 投じた費用に見合う、期待した事業効果をあげることができましたか？	できた □	不十分だった □
	（19） 会員や賛同者が増え、組織を拡大することができましたか？	できた □	影響なし □
	（20） 団体内の人材確保・育成につながりましたか？	つながった □	影響なし □
	（21） 事業を通じて、他団体、関係機関等との新たなネットワークを構築できましたか？	できた □	不十分又は特になし □
	（22） 助成事業の実施により、団体自身の成長や認知度・信頼度のアップにつなりましたか？	できた □	影響なし □
	（23） 助成事業を継続し、事業規模や対象地域の拡大、または事業内容を充実・発展させる計画がありますか？	ある □	ない □
6.インパクト（社会的成果）	（24） 助成事業の実施やその成果物（チラシ・ポスター・報告書・テキスト等）の広報により、マスコミに取り上げられる等の波及効果がありましたか？	あった □	なかった □
	（25） 助成事業をきっかけに事業への関心が高まり、地域や社会に事業が広がることを期待できますか？	できる □	できない □
	上記（25）の設問で「期待できる」と回答された根拠を具体的にご記入ください。		

◎総合評価：設問の自己評価結果及び完了報告書に記載された事業実績・事業成果などを勘案したうえで、総合評価してください。	
総合評価 （S～Dに該当するもの１つを選択）	
総合評価の判断基準	S：非常に高く評価できる水準にあるもの
	A：高く評価できる水準にあるもの
	B：良好な水準にあるが、一部課題のあるもの
	C：一定の水準にあるが、かなり課題のあるもの
	D：全般的に多くの課題のあるもの

助成事業を連携して実施したことにより生じたメリット・デメリット、その他気づいたことについてご記入ください。

各設問の自己評価を踏まえて、特に難しかったことはどのような点でしたか。また、今後うまくいくためには、どのようなことが必要だと思いましたか。

福祉医療機構（WAM）へのご意見・ご要望など

1．WAMの助成事業を利用してみて、いかがでしたか？（必ず１つにチェック）

最も当てはまるものに１つチェック☑してください。	□	満足した
	□	ほぼ満足した
	□	やや不満足だった
	□	不満足だった

上記回答の具体的な理由についてご記入ください。

2．WAMの助成事業に期待するサービスについて、該当するものに☑をつけてください。
（複数回答可）

当てはまるものすべてにチェック☑してください。	□	助成事業の募集案内
	□	助成事業の事例紹介等の情報提供 □広報誌 □事業報告会 □ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ □ﾒｰﾙﾏｶﾞｼﾞﾝ □ＳＮＳ（ﾌｪｲｽﾌﾞｯｸ･ﾂｲｯﾀｰ）
	□	事業計画時・事業実施中・事業終了後の助言や相談
	□	助成先団体相互の交流や情報交換の場の提供
	□	事業報告会や各種セミナーなど学ぶ場の提供
	□	その他

上記回答の具体的な理由についてご記入ください。

◎　ご回答いただき、ありがとうございました。
自己評価が終わりましたら、助成事業完了報告書とともにご提出ください。
なお、メールによる提出も可能です。

アドレス：　hyoka@wam.go.jp

平成26年度　社会福祉振興助成事業　　事後評価結果

助成区分	
助成テーマ	
団体名	
事業名	
事業概要	

【評価内容】

評価項目		評価の視点	ウェイト	スコア	S 非常に高く評価できる水準にあるもの		A 高く評価できる水準にあるもの		B 良好な水準にあるが、一部課題のあるもの		C 一定の水準にあるが、かなり課題のあるもの		D 全般的に多くの課題のあるもの	
					10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
プロセス評価	事業推進姿勢	・事業実施のための明確な理念 ・事業に取り組む意欲・積極性	1	0										
	事業実施体制	・団体内部のガバナンス体制の確保等、実施体制、専門性 ・有効性、実効性ある外部資源の活用・連携	1	0										
	事業実施ﾌﾟﾛｾｽ	・効果的、効率的、経済的な事業の実施 ・継続的な改善への結び付き	1	0										
成果評価	アウトプット	・計画どおりに実施され、予定した成果を生むものとなったか ・量的な指標の達成の程度	2	0										
	アウトカム	・事業の利用者等のニーズを満たした価値ある成果だったか	3	0										
	インパクト	・事業成果が地域や社会に与えるインパクト ・事業成果の他地域への広がり	2	0										
プロセス評価			3	0.0										
成果評価			7	0.0										

	ウェイト	総合スコア	S 非常に高く評価できる水準にあるもの	A 高く評価できる水準にあるもの	B 良好な水準にあるが、一部課題のあるもの	C 一定の水準にあるが、かなり課題のあるもの	D 全般的に多くの課題のあるもの
総合評価	10	0					

100　90　70　50　30　0

		助 成 申 請 時	完 了 報 告 時
謝　　金		円	円
旅　　費		円	円
所　　費		円	円
収入	WAM助成金	円	円
	参　加　費	円	円
	一般会計繰入金	円	円
	そ　の　他	円	円

【総 合 所 見】

◆評価できる点

◆課題と思われる点

◆助言・その他（事業継続、資金調達、広報、連携・ネットワーク等）

書 面 評 価 票

評価者:　　印

確認欄	調査役	課長代理

受付番号					
団体名					
事業名					
助成決定額		助成確定額		返還額	
助成テーマ					
重点					
事業概要					

			ウェイト	スコア	S 非常に高く評価できる水準にあるもの		A 高く評価できる水準にあるもの		B 良好な水準にあるが、一部課題のあるもの		C 一定の水準にあるが、かなり課題のあるもの		D 全般的に多くの課題のあるもの	
					10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
プロセス評価	事業実施体制	・団体内部の実施体制が整っており、専門性を備えているか ・有効性、実効性のある外部資源の活用・連携ができたか	1											
プロセス評価	事業実施ﾌﾟﾛｾｽ	・事業目的の実現のため、効果的、効率的、経済的な手法を用いて実施できたか ・事業の利用者等の評価を確認し、継続的な改善に結び付けているか	2											
成果評価	アウトプット	・事業が計画どおりに実施され、予定した成果を生むものとなったか ・量的な指標をどの程度達成できたか	3											
成果評価	アウトカム	・事業の利用者等のニーズを満たし、価値ある成果を上げることができたか	4											
プロセス評価			3	0.0										
成 果 評 価			7	0.0										

総 合 評 価	ウェイト	総合スコア	S 非常に高く評価できる水準にあるもの	A 高く評価できる水準に あるもの	B 良好な水準にあるが、一部課題のあるもの	C 一定の水準にあるが、かなり課題のあるもの	D 全般的に多くの課題のあるもの
	10	0					

100　90　70　50　30　0

評価者コメント
○良い点 ○気になった点